

校内研公開授業研究会

- (1) 単元名： 漢字に親しむ ― 漢字の島めぐり
 (2) 本時の目標： 漢字のしりとりや、迷路の問題をすることで、音訓の読み漢字のへんやつくりについての理解を深め、漢字に親しむ

平成 26 年 4 月よりの赴任、前任校は中頭地区の大規模校である。辺土名小学校では、校内研修で年間一人最低 1 回の授業研究を打つことを方針に取り決められている。小学校ではほとんどが学級担任である。なかなか職員全員が参加しての校内研修を設定することは難しい状況にある。そこで、管理職がビデオカメラや、写真（授業スライド）でそれぞれの授業を撮影し、その日の放課後参加できる職員でビデオアクションリサーチスタイルのリフレクションを実施している（プチ研）。実際のところ学校訪問等も数えるとすでに一人 3 回以上は授業を公開していることになる。



N・A先生も一学期から多くの授業を観てきた。まずは諸先生方の「まねび」（モデリング）である「学び合う」授業への挑戦である。

【学習環境を整える】

『静然とした深い学びは整然とした教室でしか生まれない。』

一学期に比べ子ども達もだいぶ成長してきた。子どもの心の乱れは教室の乱れに確実に映し出される。今のこの状況を子どもと一緒に維持してほしい。



靴箱の整頓
ロッカーの中
後の棚の整理
机・椅子の整頓
机の中
給食エプロン

あと少しです。教師の「こだわり」を見せるところである。かならずできるようになります。声掛けが肝心！



11:20 授業はじめ：淡々と始めることである。この教室で一番静かな子に合わせるぐらいのテンションで入りたい。フラッシュ教材による漢字の練習。あっさりやるのが肝心。2分以内に終わるようにしたい。本時の学習内容が薄れてしまいます。



【けじめ】書くときは書くだけ。教師も、書いている子ども達に話しかけるのは慎む。書くことに集中させてあげる。



11:28 【本時のめあてに入る】（1時間扱いの言語指導）対話と協同的活動における解決を仕組む

問題文を音読させ、題意を確認し解答のルールを3つおさえる。大型教科書が効力を発揮する、子ども達の目を1点に集中させて確認する。

▲ まじめで、一生懸命で、優しい教師の負の面が出る。くどい説明、しつこい確認。

子どもは、案外やりながらルールを覚えたり、題意を捉えることが多々ある。



N・A先生もっとゆとりをもってゆっくりやりましょう。時々、子ども達の表情を見てあげてください。

1 1:35 学習の進め方を確認してグループへ

説明と確認を一通り終えてグループへ。子ども達の顔がゆるんだ、教師の授業デザインもここでいったん区切りをつける。あとは子ども達の「協同・対話・支え合う」を信じて子ども達にあずけることが肝心となる。課題に向かう心には欲求がある、それは「自分でやってみたい」である。この心を満たしてあげる。



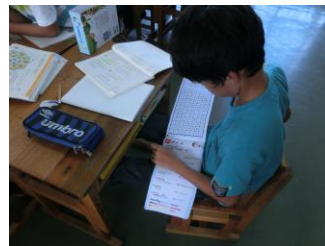
「わからない」「できない」となれば「友達に訊いてね」と依存に向けさせるとよい。今日はあえて学びのテーマを「対話と協同的活動」にしている。最初から意図的に、「子どもを向かい合わせさせる。」ことを目的とした。対話的コミュニケーションを通して、グループ内の仲間で協力して問題の解決に向かう姿勢をつくらせたい。仲間との対話に入れない子や、協同に参加できない子、プリントを独占したがる子に配慮やケアの目が向けられるようにしたい。

1 1:40 [夢中になって、身を乗り出して対話と協同に向かう子ども達] → 教師は見守る

子ども達は水を得た魚のように夢中になって解答へ向かう。教師は左写真、ケアを要する子やグループを見極めてから動く。授業開始から20分が経過している。もう少し早めにグループに下ろすとさらにいいですね。教えたことはほとんどグループの中の仲間との対話で交わされている。安心して子供に任せたい。



1 1:45 次の問題がグループに下ろされた意味の分からない漢字や部首が出てきた。確認することもなく、子ども達は、教科書やドリル、国語辞典を使って解明していった。「分からない」を解明するために必要だから調べるのです。自分たちの「分かりたい」の欲求なのです。この子たちにとって自分で調べるは、必然なのです。



グループに1枚のプリントを配布する。下のグループは一番弱い子にプリントの書き込みを預けた。自分は全く分からないが、仲間の教えやアドバイス素直に聞き入れ、プリントを埋めていく。子どものことは子どもが一番よく知っていて一番気遣える。えらい!



[共有の目的は全員発表ではありません]
左写真、4名立たせる必要ない。
右写真、奥の男の子の距離間が気になる。



N・A先生お疲れさんでした。どうでした？ 初めての「学び」の授業への挑戦緊張しましたね。無理しないでください。できれば自分の中の「まじめ・一生懸命優しさ」をもう一度リフレクションしてみてください。授業は教師の満足度ではありません。子ども達がどれだけ夢中になって学んでくれたかが勝負です。

右写真、授業終了後の写真です。きっと先生に聴いてほしいことがあるでしょうね。来てくれる子ども達はすべて受け入れてください。教師が聴いてあげるから子ども達も先生の話聴いてくれるのです。鏡です。 素敵な授業感謝します。

